

2022年9月30日
株式会社三菱UFJ銀行

東京センチュリー株式会社で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、東京センチュリー株式会社（以下、東京センチュリー）に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。東京センチュリーの事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

《本件の概要》

契約締結日	2022年9月27日
アレンジャー	三菱UFJ銀行
コ・アレンジャー	農林中央金庫
エージェント	三菱UFJ銀行
組成総額	815億円
資金使途	事業資金
貸出人（五十音順）	青森銀行、静岡銀行、十六銀行、千葉銀行、日本生命保険、農林中央金庫、 八十二銀行、福井銀行、三菱UFJ銀行

【目標 (KPI)】

内容	目標とモニタリング項目 (KPI 等)
<p>マテリアリティ：脱炭素社会への貢献 重点取組：気候変動・環境への取組みを通じたクリーンエネルギー普及への貢献</p>	<p>【目標】 ・クレジットを活用した CO2 削減 JCM (二国間クレジット制度) の 想定 GHG 削減量 (累計) 2025 年度：56,000t-CO2 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・JCM の想定 GHG 削減量</p>
<p>マテリアリティ：脱炭素社会への貢献 重点取組：気候変動・環境への取組みを通じたクリーンエネルギー普及への貢献</p>	<p>【目標】 ・連結子会社 6 社の太陽光発電事業の推進を通じた CO2 削減への貢献 —2024 年度の年間発電量目標：500,000MWh —2024 年度の CO2 削減量目標：199,750t-CO2 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・連結子会社 6 社の太陽光発電事業における発電量、CO2 削減量</p>
<p>マテリアリティ：技術革新に対応した新規事業創出 重点取組：金融・サービスと新技術の融合による新たな事業創出・デジタルエコノミーへの貢献</p>	<p>【目標】 ・経済産業省が認定する「DX 認定制度」の認定維持 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・「DX 認定制度」の認定取得状況</p>
<p>マテリアリティ：持続可能な資源利用への対応 重点取組：モノ価値に着目したサーキュラー・エコノミー拡大への貢献</p>	<p>【目標】 ・中古 PC 年間販売台数 2024 年度：210,000 台以上 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・中古 PC 年間販売台数</p>
<p>マテリアリティ：人材力強化につながる職場環境整備 重点取組：職場満足度の向上や自己成長を実感できる人材育成・ダイバーシティ・働き方改革の推進</p>	<p>【目標】 ・新卒採用に占める女性比率 2022 年度目標：30%以上 ・管理職に占める女性比率 2022 年度目標：30%以上 ・介護離職者 2022 年度目標：ゼロ 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・新卒採用に占める女性比率 ・管理職に占める女性比率 ・介護離職者数</p>
<p>自社のオフィス活動に伴うエネルギー消費量の削減</p>	<p>【目標】 ・2024 年度目標 電気使用量 1,580,000kWh ・2030 年度目標 本社床面積当たりの電気消費量(kWh/m²) 2009 年対比 23%削減 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・電気使用量 (kWh) ・本社床面積当たりの電気消費量 (kWh/m²)</p>

<p>自社のオフィス活動に伴う CO2 排出量の削減</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度目標 電気使用に伴う CO2 排出量 716t-CO2 ・2030 年度目標 本社床面積当たりの電気消費による年間 CO2 排出量 (t-CO2/m²) 2009 年対比 23%削減 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気使用に伴う CO2 排出量 (t-CO2) ・本社床面積当たりの電気消費による年間 CO2 排出量 (t-CO2/m²)
<p>マテリアリティ：人材力強化につながる職場環境整備 重点取組：職場満足度の向上や自己成長を実感できる人材育成・ダイバーシティ・働き方改革の推進</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の育児休業取得率 2023 年度目標：100% ・有給休暇取得率 2023 年度目標：70%以上 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の育児休業取得率 ・有給休暇取得率

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標 (KPI) の達成状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施します。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義 (パーパス) と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上